

銅輸出は相場の急騰など背景で増加

自動車は生産、販売ともに再び減少 住宅着工は

アルミ橋本健一郎氏リポート①



橋本 健一郎氏

■国際概況

二月前半は一月の米国 I S M 指数も前月より低下したこと、主要通貨に対してドル高が進んだこと

でドル建ての L M E 相場は圧迫などのマイナス材料もあったが、一九兆ドルの米追加経済対策が上院を通過し実施へ前進したこと、引き締め転換が懸念されていた中国金融スタンスについて当局の流動性供給維持が表明されたことを好感し L M E 銅相場は上昇、二月十五日時点で八二七〇・五ドル(セツル)と月初価格より四四三・五ドル U P の前半締めとなった。

後半は、米国債の利回り上昇をきっかけに米株安、リスク回避のドル高などのマイナス材料もあったが、米追加経済対策実施期待と金融緩和長期化の F R B 議長声明によるインフレ懸念、春節明けのアジア勢の買いが加速したことなどを好感し L M E 銅相場は U P、二月末日現在、後半スタート価格から七五六ドル U P の九、一七二・五ドル。三月スタート建値は一〇二万円。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (T T S)
一〇五・六九↓一〇七・二五(円)。

◆自動車生産台数

生産動態統計によると、一月の自動車生産台数は前年比一〇・一%減の六五万二、八七八台。輸出は一〇%減。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、二月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二・二%減の二六万二、三七二台。

◆新設住宅着工件数

一月の新設住宅着工は、持家及び分譲住宅は増加したが、貸家が減少したため、全体で前年同月比三・一%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比二・二%の増加となった。

新設住宅着工戸数は五八、四四八戸。前年同月比三・一%減、一九カ月連続の減少。新設住宅着工床面積は四、八二五千㎡。前年同月比〇・一%増、一八カ月ぶりの増加。季節調整済年率換算値では八〇一千戸。前

月比二・二%増、先月の減少から再びの増加。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が一・八%増の四万七、九七六t、スクラップが二一・六%増の三万一、五七七t。

輸入

輸入は電気銅が前年比八四・六%減の二〇〇t、スクラップ〇・八%増の九、五三四t。

■前月の国内指標

一月の伸銅品生産量は五万八、八六九トンで前年同月比一・八%増と、二六カ月ぶりプラス。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比六・五%減の五万〇、七〇〇tであった。

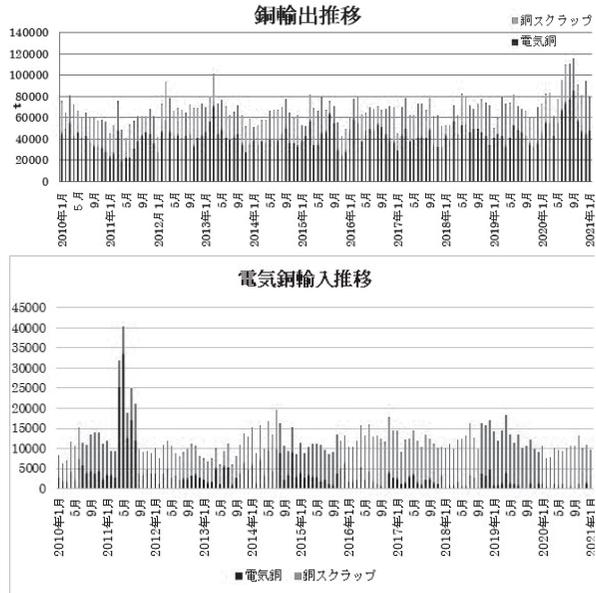
■国内概況まとめ

【自動車生産】生産動態統計によると一月の自動車生産台数は前年比一〇・一%減の六五万二、八七八台。輸出は一〇%減。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、二月の自動車販売台数(軽除く)は前年比二・二%減の二六万二、三七二台。

このうち乗用車二・二%減、貨物二・二%増、バス四〇・四%減。(六面へ続く)



LME銅・米金融緩和巡る観測とワクチン接種の動向がカギ 為替予想

(四面より続く)

【住宅着工戸数】

一月の新設住宅着工は、持家及び分譲住宅は増加したが、貸家が減少したため、全体で前年同月比三・二%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では前月比二・二%の増加となった。

【伸銅品生産】

一月の伸銅品生産量は五万八、八六九トンで前年同月比一・八%増と、二六カ月ぶりに生産量の対前年同月比で増加に転じた。5G通信と自動車向けが牽引している。

【電線出荷】

一月の銅電線出荷量(推定)は前年比六・五%減の五万〇、七〇〇t。このうち国内六・六%減、輸出が〇・五%減。

【輸出】

電気銅輸出が二・八%増の四万七、九七六t。銅スクラップが二・六%増の三万二、五七七t。

【輸入】

電気銅が八四・六%減の二〇〇t。スクラップが〇・八%増の九、五三四t。

【見通し】

・一月の自動車生産が一〇・一%減。二月国内販売台数が前年比二・二%減。生産・販売ともに減少。生産減は半導体不足と地震によるものか見極め必要。

・一月の伸銅品生産量は五万八、八六九トンで前年同月比一・八%増。二六カ月ぶりに生産量の対前年同月比で増加に転じた。5G通信と自動車向けが牽引している。

・二月の銅電線出荷量(推定)は前年比六・五%減の五万〇、七〇〇t。

このうち国内六・六%減、輸出が〇・五%減。国内のマイナスにより減少幅が拡大。

・銅輸出は相場の急騰や米中景気回復期待から増加。

・銅輸入は電気銅が相場の急騰から大幅減。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は銅建値が八六万円から一〇二万円まで急騰した過程で放出された。

また伸銅品生産の減少に伴い発生も減っており、今後も玉は不足する。

需要面に関して、前月から一転、国内自動車生産、販売が減少したが、これが半導体不足や地震によるものであると考えており、ある時点で急回復しそれに伴い需給はひっ迫するのでは？

【LME・為替予想】

今月は①米金融緩和の長期化観測と②ワクチン接種による感染拡大抑制問題に左右される。

①に関しては

パウエル議長がインフレについて「大部分で弱い」との見解を示し「米経済は雇用とインフレ目標に達するまで長い道のりがある」と述べたことから金融緩和が当面維持されるのではないかと。

②に関しては

米国では二月中旬時点で一日当たりの接種回数が七日間の平均で一四〇万回に達するなど、ペースが加速。拡大が治まるのは時間の問題ではないかと。

これらを踏まえた一月の銅価格は、八、五〇〇〜一万〇、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇四円〜一〇六円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては九二〇〜一、一〇〇円程度と予測している。

鉄原料

東京製鉄が購入価格を五〇〇円値上げ 岡山と高松は銑ダライ粉のみ横ばい

電炉最大手の東京製鉄は三月三日、全工場と高松鉄鋼センターで鉄原料購入価格を引き上げた。同社の値上げは先月二十七日以来。値上げ幅は田原と宇都宮、九州の各工場が一律・トン五〇〇円。岡山工場と高松鉄鋼センターについては銑ダライ粉を除く各品種はトン五〇〇円の値上げ、銑ダライ粉については前回に続き据え置き。

同社の特級価格のレンジについては

四万〇、〇〇〇〜四万一、五〇〇円と、上値、下値ともに五〇〇円切り上がった。
なお、東京製鉄の特級価格は次の通りとなった(トン当り・円)。
▽田原工場(陸・海上) 〓 四万一、五〇〇
▽岡山工場(陸・海上) 〓 四万一、〇〇〇
▽九州工場(陸・海上) 〓 四万〇、五〇〇
▽宇都宮工場(陸上) 〓 四万一、五〇〇
▽高松鉄鋼センター(陸上) 〓 四万〇、〇〇〇